

平成 18 年 11 月

第 12 回 とある税務調査の話

小西 英夫

開業後約 10 年来全く調査の無かった関与先に税務調査が入りました。個人事業者に対する税務調査は初めての経験で、前日までの連絡により、署から調査官 2 名来られるというのちょっとした気がかりでした。過去、私にとって初めての税務調査で調査官が 3 名こられたことがありましたが、その後の税務調査はすべて 1 名で、特段の問題もなくスルーしてきたことにより単純に人数だけで警戒心を生んでいました。

業容、売上回収方法、人員、商売の流れについての質問から始まった調査は、調査官持参の「個人調査関係書類」と題したファイルの資料と売上計上照合確認、従業員給与明細、日報確認等々、予想範囲内の通常の調査で終了かとおもいました。17 時が迫る頃、調査官が関与先使用の建設原価管理ソフトを持ち帰ろうとしましたがシステム上、無理、と断念すると今度は関与先作成のパソコンに保存してある見積書ファイル(エクセルにて約 2,400 ファイル)を後日引取に来るからと話し、関与先社長の了解を得ました。そのファイルには見積だけで終わった物件が多い位なのに・・・なんと無駄なことをするんだろうと・・・でもこんなところ調べても何も出ないのでそれで終わってくれたらラッキーとその時はおもいました。

翌々日、指紋認証 USBメモリに関与先作成のエクセルファイルを複製し、併せて過去 3 年分の元帳、会計日記帳、売り仕入の請求書ファイル、を調査官は預かって帰りました。それから 1 週間、2 週間と時間は経過しましたが税務署からなんの連絡もありませんでした。売上、仕入と各請求書関係を照合しているのかな？反面調査で時間かかっているのかな？時間の経過と共に勝手に悪い方、悪い方へと想像してしまい、たぶん判決を待つ被告はこんな心境なのかとさえ感じてしまいました。

約 1 月後、事務所から税務署へ電話すると「遅れて申し訳ありません」とのことで、もうしばらく待つこととしました。銀行関係の確認をしているとのことでしたが、入金等については月次に当然確認しているので先方は時間かけるだけでなんら収穫無く終わるとおもいました。

月が替わり、税務署よりやっと来署の要請の連絡。訪問して担当官の確認事項を見ると、売上についての質問が過去 3 年で合計 12 件、経理処理の確認点 7 件、であり正直な印象は、事務所に帰って調べればほぼ解決できること、良かったこの程度で、というものでした。といっても税務署側は、担当者が病気で時間かかったことにお詫びされましたが、話の合間合間に垣間見える机上の作成資料には相当時間をかけて丹念に調べた跡があり、敢えて時間かけて調査したことが伺えました。

今現在、今回の調査についての結論は出ておりませんが、個人的な感想として、調査に時間が掛かりすぎ(病気云々は先方の理由で、その連絡すらなかった)の点、預けた

資料は期限を切って、税務署側から関与先に直接返却してもらうこと、調査の経過説明をもっと早期すべし等、納税者に対するまた税理士事務所に対する配慮が欠けている点が挙げられます。

この間、関与先社長からは「まるで放置プレーやな」、「なんかあっても金払わへんでー」、「これだけ時間かけてなんもでーへんからあいつらアラ探ししとるんちゃうか?」、「毎月ちゃんとみてもろうとるしなア!」とプレッシャーは積もるばかりでした。

またこうした何気ない一言が妙に私の気持ちに染み渡りました。今回の件、ある人に話すると突然、税務調査って勝負事?って聞かれ、ハッとしました、そう敢えて勝負事にして日頃の監査に取り組んだらわかりやすいし、モチベーションもあがるような気がしました。今さらという面もありますが、月次監査の重要性が確認できたことも改めて認識できました。これらが今回の税務調査の収穫でしょうか。